

駐日ブルネイ大使がご来館

7月13日、駐日ブルネイのハジ・マハムド・ビン・ハジアーマッド大使が御夫人を同伴されてご来館されました。



ブルネイ王国は、ボルネオ島の北部に位置していて、石油・天然ガスが豊富な裕福な国だそうです、親日国でもあります。

ブルネイは、スマトラ島やマレー半島に囲まれ、震源からブロックされているのでスマトラ沖地震・インド洋津波の際には被害は無かったようですが、津波防災に関心はもたれているようでした。

今回のブルネイ大使のご来館で、昨年来御来館された駐日大使は10人目となりました。

今年から大使がご来館された際には、記念植樹をしていただいています。今回はライラックをご夫妻と西岡町長とで植樹されました。

在マレーシア日本大使もご来館

マレーシアに駐在されている宮川眞喜雄大使がご来館されました。

マレーシアは、あまり津波災害はないがアセアン加盟国の津波防災ということで研究しておく必要があると言われていました。しかし、スマトラ島沖地震・インド洋津波の際にはマレーシアのペナン島で犠牲者がでています。

濱口梧陵と吉田松陰に 接点はあったのか！

第4回稲むらの火講座を7月16日に開催いたしました。

「濱口梧陵と吉田松陰」と題して東京の作家・画家のよしだみどり先生をお迎えしました。

よしだ先生は、これまでも何回か当館に来られていますし、全国信用金庫協会発行の「楽しいわが家」という冊子に「宝島への道」というコーナーに、稲むらの火や広川町で出会った事柄を、「何となく嬉しくなる町」と書いてくれました。



今回の講演は『知られざる「吉田松陰伝」』という著書を出版されていますので、梧陵さんと同時代を生き、同じ様な活動をしたことを聞きたいと思ったのです。

梧陵さん等が「広村稽古場」を創ったのは、松陰の「松下村塾」より5年も早かった。梧陵



さんは、アメリカへ行きたいと思って幕府へ渡航申請を出して却下されました。松陰は、黒船で密航を企てて捕まりました。二人とも、佐久間象山の門下生でもありました。

このように同時代を生きた二人の先進的な生きざまを話していただきました。

「現代語訳 濱口梧陵傳」から その2

安政元年に有田郡に大津波が押し寄せ、広村の集落は跡形もなくなりました。水が引いた後も、村が流れて荒廃が甚だしかったため人々は不安に怯え、飢餓に瀕した。君はあらゆる手立てを尽くして人心をなだめ、^{いたわ}「^{ほどこ} 務め、私財を投げ打って人々に施した。従来広村の耕地には他村の倍の税金がかけられており村民は常に苦しんできた。君は津波を防ぐには堤防を築くことで、一日も早く築くべきと考えていた。しかし、村民は重税に苦しみ生活に忙しい。この苦しみも速やかに除いてやるべきだ。今、もし、堤防を築いて税金のかかる田んぼから堤防の敷地に地目を変更すれば、民は重税から免れることができ一挙両得の計画になる。同族の吉右衛門と謀り諸官に願い、率先して巨費を投じ自ら監督役となり日ならずして完成させた。堤はおよそ長さ十五町、幅は八間で、永遠に免税地となり、全村が一時に二つの害を免れることが出来た。その他、橋梁を作り、産業を勧めるなど功績は一つや二つではなかった。民は皆、有り難く思った。県会が出来るに及んで君は推されて議長となり、また、同友会の会長になって、政党の弊害を論じるのを受けて、その軽率な行いを抑え、着実な歩みに就かせた。説得力に溢れた言葉は村・県の人たちに自立の基本を定めさせ自治の計画を作らせた。君は既に老いたといえども英気はつらつとして若い頃と変わらず、明治十七年五月、欧米に渡航することを決断し、長年の志を遂げた。国会開設の時期が迫っており、外国の政治風俗を実際に訪ねることで国家に利益をもたらせようと考えてのことだろう。惜しむらくは、その足跡が米国一国で止まってしまい、ニューヨークのホテルで病死してしまったことだ。実に明治十八年四月二十一日のことである。享年六十六歳。(つづく)

<館長日記>

7月5～7日

NHKBSプレミアム番組「英雄たちの選択」の撮影班が来られました。「濱口梧陵さん」の1時間番組です。町内各地の史跡等が撮影されました。放送は9月1日(木)夜8時からです。

7月12日

ケイ・オプティコム eo 光チャンネル(インターネットテレビ)の撮影がありました。

「歴史ろまん紀行」という番組で放送されます。9月2日以降で、「歴史ろまん紀行」を検索してください。過去の番組も見ることができます。

7月15日

島根県松江市にある「小泉八雲記念館」がリニューアルされ、そのオープン記念式典の案内状をいただきましたので出席してきました。ここの館長は昨年の「第一回稲むらの火講座」の講師としてお迎えした小泉 凡先生です。そういう関係で案内状をいただいたと思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷
<非常備蓄品配布>

和歌山県が災害時の避難者用に食糧品を備蓄しています。その正味期限が近づいてきた物を「稲むらの火の館」の来館者に試食用という



ことで缶詰のパンを配布しています。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター
〒643-0071 住所 広川町広671

TEL : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。